2021.1

vol.9

特集
就労継続支援事業 A 型
ル・プラス

クローズアップ ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮らせる
温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人加島友愛会
http://www.kashima-yuai.or.jp

新年のごあいさつ

社会福祉法人加島友愛会
理事長
平田 純博

法人設立30周年にあたる2021年は、第2次「加島の社会福祉レインボープラン10年計画」のスタートの年といたします。

第3次新型コロナ拡大の最中にありますが、皆様には、本年が穏やかで幸多い一年でありますようご祈念申し上げます。

また、昨年同様、当法人の社会福祉事業のご利用とご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年3月(法人登記4月3日)には「人の世に熱あれ、人間に光あれ」との理念のもと当法人が設立され30年を迎えます。

法人設立30周年にあたる2021年は、第2次「加島の社会福祉レインボープラン10年計画」のスタートの年といたします。

昨年8月、東京都杉並区からのオファーがあり、30周年記念事業として認知症高齢者グループホーム・重度知的障害者生活介護事業などを開設すべくプロポーザル方式に挑戦しましたが、新型コロナ感染の拡大等により辞退せざるを得ませんでした。

しかしながら東京をはじめ他都道府県に加島友愛会の旗を立てることを断念したわけではありません。

第2次レインボープランでは加島・三津屋地域の高齢者、障害者の皆さんや当法人の福祉サービスをご利用のご家族のみなさんを中心に生活実態調査・ニーズ調査をまず実施いたします。この調査結果をもとに中長期の事業計画を策定いたします。

中長期計画は、加島地区内に当法人が所有する共同浴場跡地(1,231.23㎡)と旧加島人権文化センター跡地(2,084.35㎡)を活用するとともに必要な事業用地を取得し、現在実施している高齢・障害福祉以外の福祉課題や教育課題を含めた新規事業が考えられます。

新型コロナ対策に万全を尽くしているところですが、人材不足・人材育成問題により加寿苑特養は、利用者の「安全・安心」確保のため入所利用制限を余儀なくされ改革の途上にあります。

介護・障害福祉サービスを担う人材の確保・人材の育成は、ベトナム留学生、技能実習生を受け入れながら新規事業の人材確保・育成など第2次レインボープランの重要な柱であります。第2次レインボープランは、福祉の町づくり『誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会』を目指すものです。

新年も高齢・障害だけでなく地域の福祉ニーズをもとに現在実施している福祉事業の改革・充実に加え第2次レインボープランの計画策定を中心に必要な事業を目指していく決意です。

皆さまのご多幸を祈念申し上げ、重ねて皆さまのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ新年のごあいさつといたします。

2020年5月
機能訓練特化型デイサービス
「リュミエール ミント」 開業

加島のあかりちゃん

2020年機関誌作りを振り返って

クローズアップ UI　3年目に突入 読み応えのある誌面作りを目指します

誌面を2019年1月にリニューアルして今号で3年目に入ります。号数にして9号、法人内の3分の2ほどの施設・部署を取りあげてきました。ここでは酒井専務理事を交えてリニューアルについて振り返り、見えてきた課題と、編集作業の一部を機関誌検討委員会職員から紹介します。

奥左から酒井専務理事　森本亜紀彦

スケジュールを管理する

(森本亜紀彦・アンダンテ加島)

リニューアル号から携わっていますが、かなり苦労した記憶があります。発行日が決まっていても、企画、取材、編集という作業をどれくらいの日数割り振るのかイメージしにくかったですね。実際に作業に取り掛かっても、このペースで間に合うのか、関係部署とのやり取りは合っているのかなど不安になりました。

今では各号担当者を決めて役割分担していますが、当初は皆で作り上げようと意気込むあまり、各自がデザイナーさんとメールのやり取りをしてしまい、窓口を絞ってほしいと言われたこともありました。

機関誌は年4回の発行ですが、ひとつの号が完成する前には次の号の企画が始まるので、ほぼ年間通して向き合うことになる点は大変ですが、いろんな部署の情報が手に入るので楽しくやっています。

伝えたい場面を切り取る

(安間ゆか・Link)

私は第3号(2019年7月号)から委員会に入りました。撮影担当として取材には毎回参加しています。取材を受ける職員さんの表情や座談会の様子を撮影するのですが、これがとても難しいです。全体の構図とか、喋っている人の身振りとかを捉えるのに苦労しています。撮影後に確認したら、背景に個人情報が特定される物が写っていたり、座談会では誰かが目を閉じていたりと、使うことができない写真もいっぱいあります。取材時はできるだけ臨場感のある場面を、と思って撮影に臨んでます。

あとは各号の表紙案のテーマも考えています。季節ごとのイメージをデザイナーさんに依頼して、いくつかサンプルを出してもらって、委員会で投票して決める形をとっています。自分の投票したものが選ばれるとうれしいですが、違うものに決まっても素敵なイメージなので満足しています。

取り上げる情報の取捨選択

(芝谷佳代子・むつみ)

私も第3号から参加しています。所属部署(むつみ)が特集される号までは、他部署の記事編集を何回か経験しました。その後むつみの特集記事を作ることになるのですが、自分が所属している部署ですから、業務の楽しさや大変さといったものは自覚しているので、取材を受けた先輩や同僚の話は“あるある”エピソードだなと共感していました。

いざ記事として情報を整理した時に、何を取り上げるかとても悩みました。いろいろお伝えしたいことはあるけど、全ては掲載できないので取捨選択しないと。他部署の記事では文章表現や色の確認等が主な編集作業でしたが、自分たちの時は情報そのものの吟味から始まるのだと実感しました。

奥左から芝谷佳代子　安間ゆか

就労継続支援事業 A 型
ル・プラス

福祉未経験でも人間力で支援 関わっていく中で心開いて笑顔に

加島のひかるくん

ル・プラスは、病院関係を中心顧客としてクリーニング業を営んでいます。
「就労継続支援事業A型」の事業所として現在 39 名の利用者と
それを支援・指導する職員 17 名で運営しています。
2013 年の開所時には支援の現場職員の多くが福祉未経験者でした。
障害のある方と一緒に働くことで、
「お互いに成長することができた」と語っていました。

就労継続支援事業 A 型って？

障害者就労継続支援事業にはA型とB型があります。その二つの大きな違いは、雇用契約を結んでいるかどうかということです。
ル・プラスは就労継続支援事業A型の事業所です。就労継続支援事業A型というのは通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が可能である人に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を行う事業所で、対象の方として以下のように規定されています。

1. 就労移行支援事業を利用したが、企業等との雇用に至らなかった方
2. 特別支援学校を卒業して就職活動を行ったが、企業等との雇用に至らなかった方
3. 企業等を離職した方等就労経験のある方で、現在、雇用関係がない方

ル・プラスの状況

※ 2020 年 10 月 1 日現在

利用者数 39 名

利用者時給 964 円

2019 年度 作業売り上げ 1億4 千万円

2019 年度 平均賃金（月額） 120,166 円

健康保険 厚生年金 完備

加島友愛会で初めての大阪市外進出

ル・プラスは、2013 年 5 月 1 日に障害福祉サービスの就労継続支援事業A型として豊中市から指定を受けました。加島友愛会では初めての大阪市外進出でした。

実際は、その少し前から同じ場所にあるクリーニング企業で、就労系事業所のLinkやむつみと連携し、企業実習を行っていました。加えて豊中市委託の緊急雇用基金事業のプロポーザル公募案件を受託し、その業務も同時期に始まり、それらの活動をする中で、法人としてA型事業所の運営を模索し、ル・プラスの開所に至りました。

ル･プラスはいわゆるホームクリーニングではなく、リネンサプライヤーを通じた施設・病院系の布団、患者衣、白衣等の洗濯仕上げを受注しています。工場は月曜日から土曜日まで稼働していて、全スタッフがシフト制で勤務しています。

布団をたたんでいるところ

二つの契約

A型作業員（利用契約者）の方は、加島友愛会との「雇用契約」と「福祉サービス利用契約」の両方を締結しています。これは、就労継続支援事業A型の運営が福祉だけでなく労働にも密接に関わっていることに起因しています。

A型事業所の運営では、労働と福祉のバランスが問われます。工場の働く仕組みや収支が良いだけでも、かといって相談や生活面を中心としたサポートが良いだけでも、どちらかが良いだけでは不十分です。「仕組みだけでもダメ」「思いだけでもダメ」で、常に両方が成立していることを自問しながら取り組んでいるところです。

患者衣をたたんでいるところ

それぞれの「はたらく」

利用を希望される方に対しては、ル･プラスには「働く場所（居場所）と仕事（賃金）、相談する仕組み（サポート）がある」こと、さらに仕事の種類もある程度適性に合ったセクションに配置可能で、1 日 6 時間以上・週 5 日の実働勤務、労働保険の完備や雇用保険はじめ、厚生年金や健康保険といった社会保険にも加入できる事を伝えています。

ル・プラスには様々な経緯で雇用と利用の契約に至った方が通所されています。利用希望の方には「まずはル･プラスに来て、仕事をして、収入を得る。このサイクルで生活をする中で『次の目的』に取り組みませんか」と話しています。

人によって『次の目的』とは、仕事の事、家族の事、友人の事、お金の事、病気の事、余暇の事等々、ポジティブな内容からネガティブな内容まで様々です。それでも働く習慣を伴う生活サイクルの中に居ながらにして『次の目的』に取り組む事は、より良い方向へ向かう準備の一つだという事をル・プラスで感じてもらえればと思います。

ル・プラスを利用するまでの流れ

●豊中市地域就労支援センター
●障害者就労・生活支援センター
●その他障害者支援機関
→ 見学 → 実習 → ル・プラス利用
●雇用契約
●福祉サービス利用契約

地域に必要とされる事業所を目指して

2017 年には豊中市から生活困窮者就労訓練事業の認定を受け、「福祉サービスの対象外である」「社会に出るのが不安」「仕事が見つからない」といった理由で生活が困窮している方を対象に、ル・プラスを働く場として提供しています。これまでも、ご本人や自立相談支援機関の方と調整しながら、年間数名の方を有期限の非常勤職員として採用し、次へのステップの場として活用していただきました。

白衣の
アイロンがけ

先にも述べましたが、A型事業所の運営は福祉施策と労働施策にまたがります。ここ数年は様々なアイデアや投資で収益を上げ、素晴らしい運営を行っている事業所もあれば、貧困ビジネスに近い指摘を受ける事業所も散見されると聞きます。国は 2016 年の運営基準の見直しにより、全国的にA型事業所の経営改善を図っていますが、現在も 7 割近い事業所が経営改善計画の提出を求められています。最低賃金の変遷や、働き方改革への対応など、今しばらく制度の波に向き合っていく時間が続きそうですが、ル・プラスでは今後も新しい取り組みにチャレンジをして、「多様な働き方」を体現できる、また地域にとって必要とされるA型事業所でありたいと思っています。

管理者
市村賢一

プロフィール
（いちむらけんいち）
かしま障害者センター副館長
ル・プラス管理者
大学卒業後、一般企業で就職していた。2001 年 4 月加島友愛会入職。障害のある人の就労支援にやりがいを見出し、現在に至るまで携わり続けている。

進行役・谷口哲夫
（たにぐちてつお）支援課長。一般企業へ就職した後、専門学校で介護職の資格を取り2006年4月入職。Link、むつみを経て2018年12月よりル・プラスへ異動。

障害は少し目立つ個性みたいなもの？ 焦らせず急がせず慌てさせずゆっくりと

得意分野ほめて伸ばす「最初はゆっくり」が大切

——皆さんの入職のきっかけは、そして実際働いてみてどうでしたか？

島元　元々クリーンカンサイで働いていて、ル・プラスが開所するときに、加島友愛会で働きませんかと声をかけてもらったのがきっかけです。最初は障害のある人とのコミュニケーションが難しく、作業を一つ教えるのにも工夫が必要だと感じました。ただ一緒に働いているうちに、障害といっても一つの個性で、それが少し目立っているだけなのかなと思うようになりました。人それぞれに個性があるようなものなのかなと。

村上　私もクリーンカンサイで働いている時に「お手伝いに入って」と言われ、こちらへ来ました。スタート時は少人数だったので和気藹々（わきあいあい）で、意思疎通できにくい方でもこんなに一生懸命に丁寧に畳めるんだとか、ずっと立ちっぱなしでも文句も言わずに黙々とやってるんだなどと感銘を受けました。その後、事業が大きくなり、いろんな障害のある人が入ってこられて、障害特性によっても対応の仕方が違うし、日々の健康状態で昨日までできていた作業が今日はできないとか、いろんな方々がいらっしゃるのだとわかりました。それに対してネットや皆さんから教えてもらいながら自分なりに勉強して理解を深めていきました。苦手なこともあるけど得意なこともある。得意なことを見つけ伸ばせるよう心がけています。

宮村　近所でパートの仕事を探していてここを見つけました。私も福祉関係の仕事はまったく未経験でしたが、この方にはこういうふうに接したらよいなどと、少しずつ理解を深めていきました。利用者さんたちは「わあすごい、上手だね」と褒めると自信を持ち、次の仕事も頑張ってくれます。日々そういうことの積み重ねで今までできました。これからも新しい発見があると思います。

言葉でだめなら見て触れて品質への意識を高める

——品質管理を意識してもらうためには踏み込んで教えなければいけないこともあると思います。クレームを無くすためにどんなことに気をつけて作業を教えていますか？

島元　できないからと突き放すのではなく何度も根気よく教えています。すぐに覚える人も、十回二十回と同じことを繰り返せばわかる人もいますから。そして言葉で難しければ目で見てわかるようにフリップを作るなどしています。それでもミスは出ます。…なぜミスになるのかその都度教え理解してもらうことで、一定の品質で出来るようになりました。

洗濯機への投入

村上　その方に合った作業場で仕事ができるように、障害特性を理解するようにしています。例えば字の読めない方が字を読んで仕分けするのはしんどいし、やる気もなくしてしまう。その人をよく見て、分けるのが得意なのか、数えるのが得意なのか、同じことを繰り返すのが得意なのか、手先が器用なのか、そうしたことを考えて配置し、そのうえで焦らせず丁寧に仕事ができるようにします。一日に仕上げなければならない量は決まっていますが、最初から急がせたり慌てさせたりすると品質が落ちますし、本人のやる気もなくなる。それよりはきれいに仕上げるということをまず意識できるようにしています。ボタンはしっかり留め、畳んだときずらさない、初期の段階でそういう細かいことを繰り返し教えます。それができたら「今日はすごくきれいにできていますよ」と言葉をかけ、できていなければ「ここはちょっとおかしいね」などと日々確認して身につけていけば、どんどん、きれいで早くなっていきます。最初はみんな遅いのですが、それは大切なことなのです。ミスは集中力が欠けてくる昼食後のぼんやりしているときなどに起きるのでタイミングを見て声かけもします。

白衣ポケット内の検査

宮村　私はお布団とか毛布などの仕上げに携わっているのですが、例えば乾燥が足りなくて湿っているときには、じかに触って自分で感じてもらうようにしています。湿り気の取れてないものを袋に入れるとカビが生えたりするので、そういうところは細かく伝えます。髪の毛の混入はクリーニング業で一番嫌われるので、布団や毛布に付いていたら必ず取るよう繰り返し教えてきました。畳み方にしても、きっちり出来る人もいれば多少雑な人もいますが、ペアで仕事してもらい、スタッフがいなくても、利用者同士声をかけ合える雰囲気を作っています。利用者さんも成長していくなかで品質を維持しています。

評価され喜ぶ姿が励み 優しくなった自分を感じる

——働いている方は福祉サービスの利用者でもある訳ですが、どのような配慮をしていますか？

島元　小さなことでも気になって悩んでしまう方もいるので、相談に乗ってアドバイスします。モチベーションアップにつながるように働きぶりをフィードバックしたりもします。

村上　作業のことだけでなく、対人マナーについての助言もしています。意思疎通の図り方など可能な限り教えています。「こういうふうに言ってあげたらよかったんじゃない」とか…、トイレは「汚したらキレイにしておきましょう」とか「トイレットペーパーが無くなったら足そうね」とか…。社会では皆が一緒に働いていて自分一人ではないということ、周りの人のことも考えながら働こうということを常に伝えています。

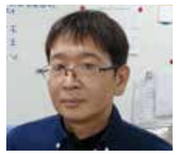
宮村　利用者さんの体調は日々、季節によっても違います。一人ひとりに向きあってはいるんですけど、自分たちもシフトで休みという時もあるので、毎日の報告、連絡、相談が大切だと思います。

——この仕事をやってててよかったと思う瞬間はどういう時ですか？

島元　障害のある人は何か特別な人ではなく一人ひとりに特徴や個性があるんだとわかり、普通に接し配慮も自然にできるようになりました。人の見方も幅広くなり自分の成長を実感できたとき、よかったなと思います。

宮村　今まで見えなかったその人のすごいところ、よいところ、努力したところが見えるようになり、それを評価するととても喜んでくれます。それが自分の励みにもなります。人に優しくなった気がするので、この仕事をやってよかった。

村上　入ってきた当初まったくしゃべらない方がいて、「しゃべれないのかな」と思っていたんです。後になって、それまでの社会生活の中でとてもつらいことがあって声が出なくなったとわかったのですが、その方がいま、笑顔で私に「これ、こうやってんで」とか、お話ししてくれるんですね。私にはそれが何よりも「やってよかった」と思えることです。



島元雅寿
（しまもとまさとし）本務職員。2013年5月、ル・プラス開所に伴い、隣接する協力会社 クリーンカンサイ株式会社より転職。作業全般の指導にあたる。

村上美果
（むらかみみか）常勤嘱託職員。2014年3月入職。前職のクリーンカンサイ株式会社でも新入職員に仕事を教える立場にあり、ル・プラスでは利用者のサポートにあたる。

宮村ゆり
（みやむらゆり）非常勤職員。一般企業で8年間勤務して退職。主婦業に専念した後、2014年10月、ル・プラスの募集広告を見て、自宅から通えるということで応募。

協力会社の紹介

ル・プラス開所当初から、クリーニング等について様々なサポートをしていただいている協力会社をご紹介します。

代表のお二人にコメントをいただきました。

布団丸洗い専門工場としてノウハウと思いやりをル・プラスに伝えます。

小川隆久
（おがわたかひさ）
代表取締役

スタッフ・利用者さん達に、無理なく結果を残せる体制作りに協力できればと思います。

横山敬三
（よこやまけいぞう）
専務取締役

クリーンカンサイ株式会社

業務内容	ふとんクリーニング事業 医療施設私物クリーニング事業、寝具・ジュータン・カーペット類、水洗い専門クリーニング事業
資本金	1000万円
従業員数	65名
代表取締役	小川隆久

協力会社クリーンカンサイ株式会社の従業員のみなさん

誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人
加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

ホームページは
こちら!

加島のあかりちゃん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業 B 型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（障害者グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業 B 型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

“COCOLO” 相談支援センター
（地域活動支援センター（生活支援型）・特定相談支援事業・一般相談支援事業）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業 A 型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島 1 丁目 4-3
TEL.06-6151-3701 FAX.06-6151-3810
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

ケアプランセンター　加寿苑
TEL.06-7651-1600 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen-kyotaku@kashima-yuai.or.jp

ホームヘルプセンター　加寿苑（高齢部門）
TEL.06-6306-6205 FAX.06-6476-0773

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

リュミエールミント　機能訓練特化型デイサービス
TEL.06-6308-7797 FAX.06-6308-7799
e-mail lumieremint@kashima-yuai.or.jp

体験利用
受付中

❼ヘルパーステーション　トレフル（障害部門）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-34
TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❽サービス付き高齢者向け住宅
ファミール・シャルレ

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 38-20
TEL.06-6305-5750 FAX.06-6305-5756
0120-991-707
e-mail famille@kashima-yuai.or.jp

企画 法人機関誌検討委員会
蓬田高広　西岡剛　真嶋広匡　谷口哲夫
十倉伸二　山下修一　森本亜紀彦　武内恭祐
安間ゆか　芝谷佳代子　内田信也
編集協力 新島洋
デザイン 桐田博子
印刷（財）浪速振興会